

## 土淵地区活動センターが新しくなりました！

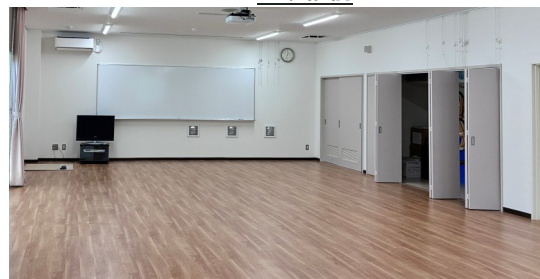
土淵地区の地域コミュニティ活動の拠点施設であり、昭和59年の開館から41年を迎えた「土淵地区活動センター」が、盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化計画に基づく大規模改修工事を経て、装いが新たに became.

工事は、令和7年7月から令和8年4月までの約10か月間行われ、「安全・安心」「バリアフリー」「利便性・快適性」に配慮しながら、エアコンやスロープの設置、照明のLED化、トイレの洋式化、間取りの変更とともに、各種設備の更新や屋根・外壁部材の交換により、施設の長寿命化が図られました。



▲改修前

集会室を和室(畳)から洋室(クッションフロア)に改修しました



▲改修後

5月18日(月)には落成式が執り行われ、地域住民や利用団体など多くの関係者が参加する中、テープカットなどのセレモニーを通じて、工事の完成を祝いました。

生まれ変わった施設が、地域の皆様の交流拠点となり、地域に活力を生み出す場として、今後も多くの住民に親しまれ、愛される施設となることを願っています。



### NPOからのお知らせ

#### 新たに設立認証したNPO法人のご紹介

#### 特定非営利活動法人

#### いわて失語症支援センター

##### 【活動目的】

失語症当事者及びその家族に対して、失語症に関する普及啓発、相談支援、及び公的支援の活用推進に関する事業を行い、当事者とその家族が地域社会で孤立することなく、自分らしく安心して暮らせる社会の実現に寄与すること。

【認証日】 令和8年5月13日

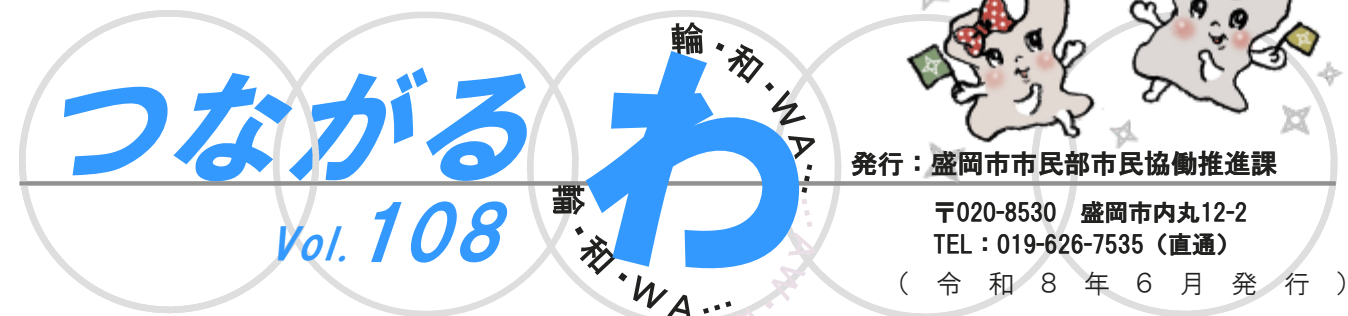
#### 特定非営利活動法人とは？

「特定非営利活動法人促進法」に基づき法人格を取得した団体を、特定非営利活動法人(NPO法人)と言います。盛岡市が管轄するNPO法人は、令和8年4月1日現在で117法人あります。NPO法人は、法に則って運営を行い、定款や事業報告、会計書類などを公開することが義務付けられています。法人の事業報告書等は、内閣府 NPOホームページ(NPO法人ポータルサイト)において公開されているほか、市内のみに主たる事務所を有するNPO法人については、盛岡市市民協働推進課内(盛岡市役所本庁舎1階)で公開書類を閲覧することができます。

内閣府NPO法人ポータルサイト ▶



回																			
覧																			



つながるわ Vol. 108

発行：盛岡市市民部市民協働推進課

〒020-8530 盛岡市内丸12-2  
TEL：019-626-7535 (直通)

(令和8年6月発行)

## 一万本の桜がつなぐ地域の絆 オオヤマザクラまつり



▲サクラパーク姫神 咲き誇るオオヤマザクラ

4月26日(日)、日戸キャンプ場(日戸字新田地内)で「オオヤマザクラまつり2026」が開催され、約1,200人の来場者で賑わいました。

平成22年度から続くまつりですが、この地でオオヤマザクラが楽しめるようになったのは、平成9年に、「地域を美しくし都市との交流を深めたい」という思いから「桜の名所づくり」が提案され、翌年から2年間で約1万本のオオヤマザクラを植えたことがきっかけ。

現在は、合同会社ひのと(廣田勉代表)と日戸自治会(水澤豊彦会長)が中心となり、下草刈りや桜の管理をはじめ、フラワーロードの整備やパークゴルフ場を活用した交流等に取り組んでいます。日戸自治会と同社は、地域の美しい景色を訪れた人々に楽しんでもらいたいという思いのもと、協力してくれる人々に対して積極的に声かけを行いながら、活動を続けています。

水澤会長は、「大変な作業も多いけれど、みんなで豚汁を食べたりイベントをやったり。地域全体で取り組んでいるから続けてこられた。」と微笑み、廣田代表は、「高齢化が進むなど課題もあるけれど、この景色を見て、この地域に興味を持ってもらいたい。」と語りました。

ふるさとを思う気持ちで守り育てられてきた満開の桜が、訪れた人々を楽しませていました。



▲もちまきを楽しむ来場者

## 八幡ぼんぼこ市が開催されました！

八幡ぼんぼこ市実行委員会（外柳進委員長）は5月17日（日）、盛岡八幡町通を歩行者天国にし、大青空市やアトラクションを楽しめる「八幡ぼんぼこ市」を開催しました。

このイベントは、盛岡八幡町通の道路整備後、地元町内会の人々から「せっかくだから何かやりたいね」という声が上がったことをきっかけに、平成24年から開催しています。

当日は、約40店舗の出店による大青空市や、アトラクションとして、さんさ踊りの演舞や雪駄飛ばし世界大会なども行われ、多くの来場者で会場は賑わいを見せました。

10年以上続く八幡ぼんぼこ市は、長く続けるために「無理をしない」ことを大切にしています。当初は年5回の開催でしたが、準備等の負担を考慮し、年3回に見直しました。また、電話やFAXでの出店申込を、ウェブ上の専用申込フォームでの受付に変更し、事務の手間を減らす工夫を重ねています。

外柳委員長は、「地元町内会がメインとなって運営しているイベント。続けることで、顔の見える町内会を維持していきたい。八幡ぼんぼこ市をきっかけに、八幡町に足を運ぶ人が増えてほしい。」と期待を寄せていました。



▲多くの来場者で賑わう盛岡八幡町通



▲雪駄飛ばし世界大会(児童の部)の様子

令和8年度は、8月23日（日）と9月27日（日）にも開催を予定しています。

## 賑わいをひろげる名乗マルシェ

名乗町内会（高橋智夫会長）では、町内で作っている野菜を売買する『名乗マルシェ』を、令和6年から名乗町内会公民館（山岸六丁目）で開催しています。「生産者の顔が見える、安心な野菜を食べたい。」「地域の住民が交流できる場をつくりたい。」という有志の思いから、町内の生産者が新鮮な野菜や手工芸品を持ち寄って、販売するイベントが始まりました。

回を重ねるごとに好評となり、最近では近隣の若い農業従事者から野菜の提供を受ける等、地域を超えた交流も深めています。

実行委員の東根りり子民生児童委員、吉田美代子保健推進員は、「来館者からの『身近な場所で買い物ができてありがたい。喫茶スペースがあるので、お茶を飲みながらのおしゃべりの時間も毎回楽しみ。』という言葉が嬉しいです。若い人たちも気軽に参加できるイベントも検討したいですね。」と語ります。高橋会長は「町内会行事は年4回だけ。敬老会も無くなり、交流と連携を図る機会が少ないと感じていた。名乗マルシェには高齢者もたくさん参加しています。来館者の親睦の和が広がる様子が見られ嬉しいです。これからも続けていきたいです。」と話していました。

令和8年度は、8月2日（日）と10月25日（日）午前6時から午前8時までの開催を予定しています。



▲マルシェの様子



▲マルシェ開催中の名乗町内会公民館

## ～もりおか丸～自然と人と盛岡の舟運文化

「木造船もりおか丸」の運航「北上川舟運」が、8年目を迎えました。この事業は、北上川に舟っこを運航する盛岡の会（海野伸会長）が運営



▲乗船している舟からの景色

しています。盛岡における舟運は、かつて北上川で栄えた物資輸送の大動脈で、城下町盛岡の文化でした。同会では、その文化の魅力を活用し、観光振興を図りたいという思いから運航に取り組みました。

北上川舟運主催の盛岡地区かわまちづくり（舟運）実行委員会の阿部優事務局長は、「川についての知識がない中、河川利用の許可や必要な諸手続に加え、水量調節のダムの放流等、未知のことの連続でした。」と話します。しかし、もりおか港（開運橋上流右岸）から、昔栄えた舟運の起点である新山河岸（明治橋上流左岸）までを舟で繋ぎ、街の

賑わいを取り戻したいという同実行委員会の強い思いから、令和元年度に実現させることができました。

阿部事務局長は、「川側から街を見上げた景色は素晴らしく、新鮮な体験ができたという乗船者の声と笑顔が、やり甲斐になっています。水は自然と人、文化の源で、その関わりこそ生命の原点であり、川に親しむことでその恩恵を感じてもらえると思います。」と太鼓判を押します。また、「運営に関わっているのはボランティアの方ばかり。興味を持って応援して下さる方がもっと増えると嬉しいです。」と期待を寄せていました。

令和8年度からは事前予約コースに加え、当日受付の周遊コースも設け、10月3日（土）まで運行の予定です。

▲北上川を遡上し岩手山を仰ぐ▶

